

THE SEPTET

都市の生活を受け止める CASE

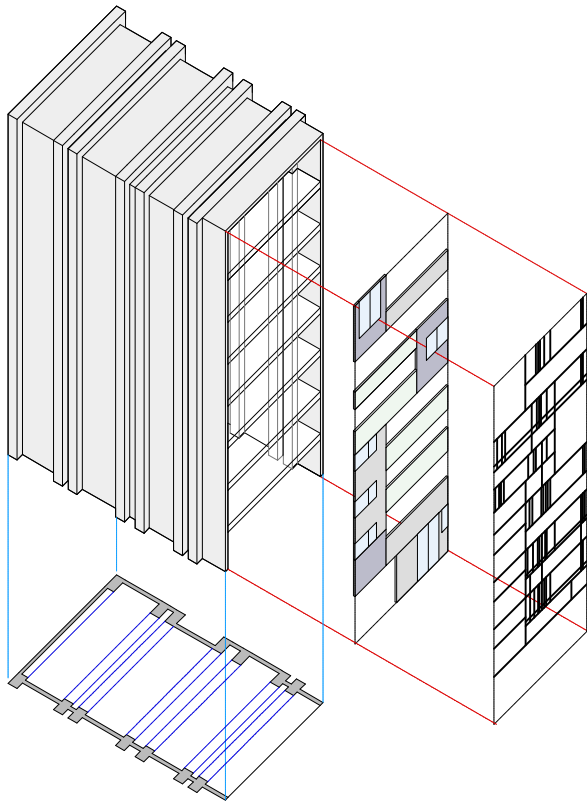


主要用途 : 賃貸併用住宅+事務所
構造 : RC造
階数 : 地上7階
建築面積 : 103.45㎡
延床面積 : 632.60㎡

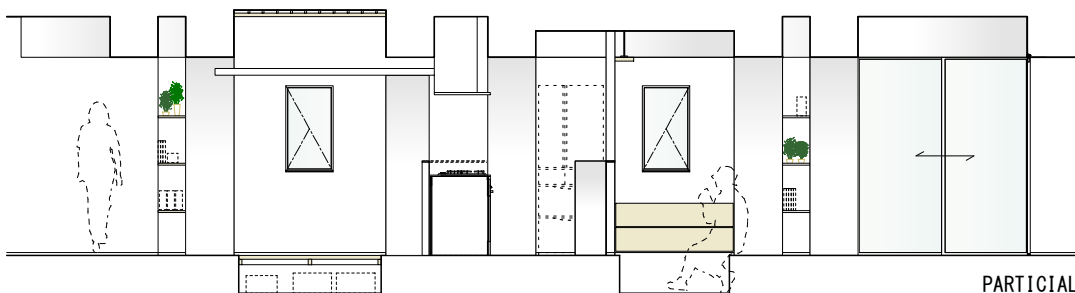
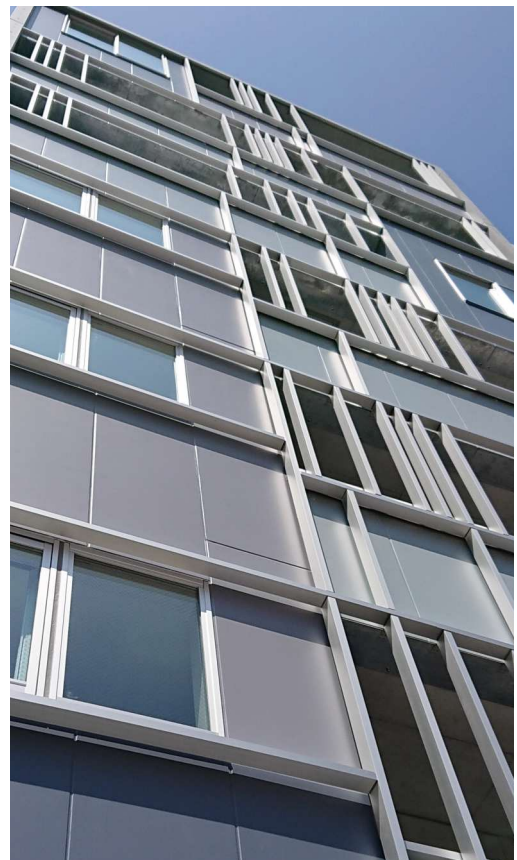
CONCEPT

多様な要望に応えるための RCダブルフレームからなる設計
また、生活者のプライバシーを守りつつ、日差しを調整する格子ルーバーからなる外観

DIAGRAM



PHOTO



PARTIAL SECTION



● 「7層・7つのフレーム」 / 「THE SEPTET : 7重奏としての建築」

東京の主要駅である上野駅にほど近い中高層の共同住宅やテナントビルが密集するエリアに建つ、オフィス・共同住宅・2世帯住宅など7つの世帯・ユニットが積層する7階建ての複合建築。1階から7階まで各階の用途やプランが全て異なり、要求も変わってくる。中高層の都市建築ではこうした状況は多くみられ、複合的な問いかけに、みな従来の画一的で空間を遮る躯体ラーメンフレームの制約のなかで解のパズルに追われている。また現代建築の物理的な対応年数に対して、都市環境や、人の暮らしは、時と共に絶え間なく変化・更新を続けていて、更新のサイクルに隔たりが生じている。こうした立地や社会背景にあって、改めて建築に求められる機能や用途を、より幅の広い時間軸の中で、その価値を維持できるストックとしての本来的な建築あり方を特別な工法を用いることなく、[7層]で[7つのフレーム]の構成をもって[THE SEPTET : 7重奏としての建築]と称して目指した。

● 空間の襲と更新可能な建築

今回の計画では、7つのRC門型フレームを外核に沿ってレイアウトすることで、フロアの中央部から柱をなくし、躯体で遮られないスペースを獲得した。間口方向のファサードを乾式パネルにより構成し、自由度を高く確保し、かつ将来の更新性に対応する。

このことで、7つの層それぞれに異なるプランを自在に計画でき、時の経過により周辺状況や生活スタイルの変化などによる更新に応じて、内部も外部も自在に再編可能な建築となった。建築時点での要求や問題に呼应し、かつ将来の変化にも順応できる計画が生み出す空間は、間口方向のファサードからは内部の営みが都市へと表出し、構造体が内外に表れて都市と空間の、襲と陰影をつくり、街並みを形成していく建築だった。



多様なプランを受け入れる外殻

室内空間に変化を生む可動床板スノコ

